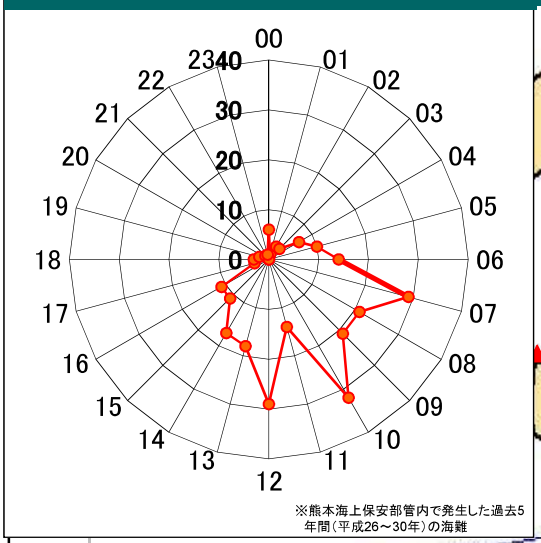
熊本県の海難発生の傾向（熊本マリンハザードマップ）

※熊本海上保安部管内で発生した過去5年間（平成26～30年）の海難

海難発生の時間帯



衝突・乗揚げ海難の分布

海上保安庁
JAPAN COAST GUARD

熊本の海に安全・安心を「熊本海上保安部」

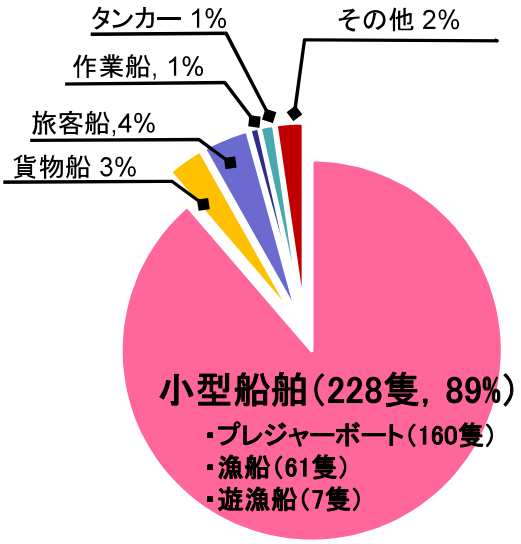
熊本県宇城市三角町三角浦1160-20　電話:0964-52-3105

熊本県の海難発生の傾向（熊本マリンハザードマップ）

※熊本海上保安部管内で発生した過去5年間（平成26～30年）の海難

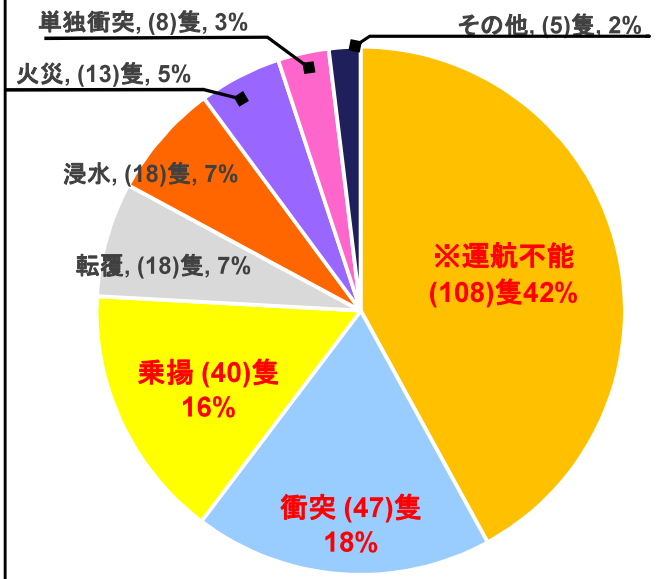
船種別の海難発生隻数の傾向

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	合計
プレジャーボート	30	26	34	33	37	160
ミニボート（再掲）	4	7	8	10	12	41
漁船	17	16	8	8	12	61
貨物船	3	2		3		8
旅客船	1	5	1		3	10
遊漁船			5	1	1	7
作業船	1	1				2
タンカー	1	1		1		3
その他	3	1		1	1	6
合計	56	52	48	47	54	257



船舶海難の発生は、過去5年間で見ると平均51隻です。その多くがプレジャーボート、漁船、遊漁船といった「小型船舶」で、全海難の約9割を占めています。

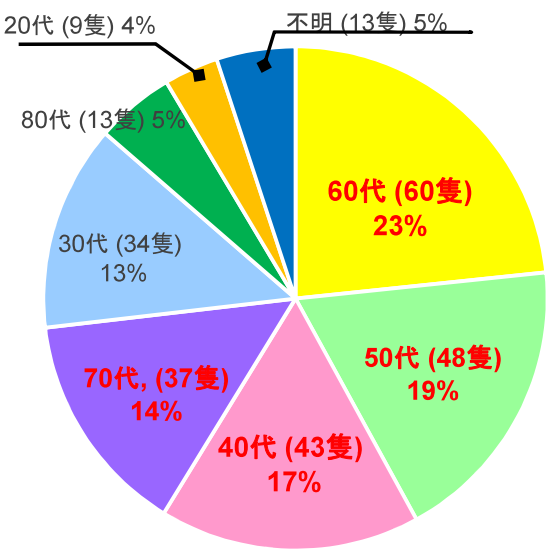
海難種別の傾向



※運航不能とは、機関故障、推進器障害、無人漂流などを言う

機関故障による「運航不能」は、定期メンテナンスで防ぐことが可能な事故がほとんどであり、「衝突」「乗揚げ」においては、原因の多くが「見張り不十分」・「操船不適切」で、操船者が注意していれば防げた可能性が十分にあります。海難の多くは、個人の意識1つで防ぐことができることから安全意識をしっかり持ちましょう。

操船者の年齢別の傾向



注目！ **50代～70代の事故は約6割（過去5年間）**

60代の操船者による海難が最も多く、ベテラン世代の海難が全体の約7割を占めています。
年齢を重ねるとともに視野が狭くり、反応時間も遅くなることから、危険の発見が遅れがちになると言われています。常に初心にかえり、安全運航に努めましょう。